


神奈川の研究者紹介

氏名	岩崎 学 (いwasaki manabu)	
現職	横浜市立大学データサイエンス学部 教授 理学博士	
主な経歴	1977年3月 東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了 茨城大学工学部、防衛大学校数学物理学教室、成蹊大学理工学部を経て、2018年4月より現職。成蹊大学名誉教授	
専攻分野・研究テーマ	統計的データ解析の理論と応用 データサイエンスの教育と普及	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員の 経験等)	<p><b>【著書】</b>                  岩崎 学 (2010) カウントデータの統計解析. 朝倉書店                  岩崎 学 (2015) 統計的因果推論. 朝倉書店                  岩崎 学・姫野哲人 (2017) スタンダード統計学基礎. 培風館                  岩崎 学 (2019) 事例で学ぶ! あたらしいデータサイエンスの教科書. 翔泳社 他</p> <p><b>【学会活動】</b>                  統計関連学会連合理事長、日本統計学会会長・理事長、応用統計学会会長など統計関係の学会の役員を多数務める。</p> <p><b>【行政委員】</b>                  内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、消費者庁、医薬品医療機器総合機構などの専門委員を歴任。</p>	
神奈川県との 関わり	横浜市政策局との協働で、データサイエンス関連のシンポジウムでの講演 横浜市職員のデータサイエンス分野の啓発活動のセミナー講師 神奈川県の高등학교数学教員に対する講演 など幅広く活動。	
メッセージ	<p><b>【関心を持っている領域】</b>                  現代では、ほぼすべての情報が電子化され、データとして供給されています。まさに data everywhere の時代です。またデータも、これまでのような数値だけではなく、テキスト、画像、音声、動画などあらゆる形態をとっています。これらをいかに有効に利活用するか、そのための人材をどう育成するかがデータサイエンスに与えられた使命です。これまでの統計学の枠組みを超え、誰もがデータを扱えるようになるいわゆるデータリテラシーの涵養こそが、これからの社会を発展させる原動力になります。これらすべての活動に関心を持っていますし、微力ながら力を尽くそうと考えています。横浜市大のデータサイエンス学部に期待してください。</p>	
連絡先	横浜市立大学 データサイエンス学部 〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2 E-mail: iwaskim@yokohama-cu.ac.jp	

## 神奈川の研究者紹介

氏名	佐藤 彰洋（さとう あきひろ）	
現職	横浜市立大学データサイエンス学部 教授 博士（情報科学） 総務省統計研究研修所 客員教授（2019年5月より）	
主な経歴	2001年3月 東北大学情報科学研究科博士課程修了 博士（情報科学）、日本学術振興会特別研究員（DC）（2000年-2001年）、京都大学情報学研究科 助教、特定准教授（2001年4月-2019年3月）、科学技術振興機構さきがけ研究員（2015年10月-2020年3月）、横浜市立大学特任教授（2019年4月-2020年3月）を経て現職	
専攻分野・研究テーマ	エージェントモデル、応用としてのデータ中心科学 ビッグデータ基盤及びデータ駆動型デザイン思考とデザインワークショップの設計 ならびに実施方法論に関する研究、経済社会システムのデータ解析	
主要業績 （これまで 発表した著 書、論文、 行政委員の 経験等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐藤彰洋「メッシュ統計」（単著）共立出版（2019）。</li> <li>・ Aki-Hiro Sato（Eds.），“Applications of Data-Centric Science to Social Design,” Springer,（編纂）Singapore（2019）。</li> <li>・ Aki-Hiro Sato, “Applied Data-Centric Social Sciences,”（単著）Springer, Tokyo（2014）。</li> <li>・ 林高樹/佐藤彰洋著, 「金融市場の高頻度データ分析 —データ処理・モデリング・実証分析—」,（共著）朝倉書店（2016）。</li> <li>・ 「横幹&lt;知の統合&gt;シリーズ 社会シミュレーション」（共著）東京電機大学出版局（2017）。</li> </ul>	
神奈川県との 関わり	ヨコハマSDGs デザインセンター、横浜市立大学、グローバル・システムの持続可能性評価基盤に関する研究 MESHSTATS ( <a href="https://yokohama-sdgs.jp/contents/5">https://yokohama-sdgs.jp/contents/5</a> )	
メッセージ	<p>【関心を持っている領域】</p> <p>世界メッシュ統計に基づくビッグデータ統合利活用に関する研究を行っています。サービスデザインの手法、経済社会システムにおける課題発見、検討（シミュレーション）、設計、見積もりを可能とするデータ駆動型デザイン思考を志向しています。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>データを手掛かりに課題発見や問題解決をグループワークとして行うデータ駆動型デザインワークショップは、人間中心的な発想からの商品開発や業務改善に有効な手法です。神奈川県の皆様とともに、この方法論に取り組みたいと考えています。</p>	
連絡先	横浜市立大学 データサイエンス学部 〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2 E-mail: ahsato@yokohama-cu.ac.jp	